

全小・社・研

・発行所
・全国小学校社会科学研究協議会
・東京都板橋区上板橋1-3-1
・発行人 和田 幹 夫
・編集人 小 澤 伸 生

東京大会への期待

全国小学校社会科学研究協議会会長
東京都板橋区立上板橋第四小学校長

和田 幹 夫



本年五月上旬の新型コロナウイルス感染症五類移行に伴い、社会生活における様々な制約が緩和され、学校においてもかわりを大切にした教育活動が積極的に行われるようになってきました。

このような中、各都道府県の社会科学研究部では、小学校学習指導要領(平成二十九年告示)の趣旨や内容、中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』(令和三年一月)の構築を目指して「を踏まえ、その具現化や達成を図る意欲的な授業実践が積極的に積み重ねられていく」と存じます。

さて、今年度は、十一月九日(木)・

十日(金)に第六十一回全国小学校社会科学研究協議会研究大会(東京大会)が、「社会とつながり未来を創る子供の育成」(社会的現象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して)を大会テーマに掲げ、開催されます。本研究における最も大きな特色は、教師の側面と、子供の側面の両面をつなぎながら単元の構想を行っている点にあると考えます。学習指導要領を正しく理解し、教師が子供たちに捉えさせたい知識を明確にするとともに、子供たちは、どのように考えながら追究していくのか、問いの形で思考の流れを想定しています。そして、その二つの側面をつなぐものとして、「社会的事象の見方・考え方」を位置付けています。そして、子供自らがその見方・考え方を働かせられるような資料や学習活動を検討しています。社会的事象の見方・考え方は、思考力、判断力は

もちろん、生きて働き知識の習得にも必要不可欠なものであり、社会科の本質的な学びを促すものです。本研究における考え方は、まさに社会科の本質的な学びに迫るものであると考えます。

さらに、このようにして描いた単元の構想を基に、教材やその提示方法、資料や方法、課題を選択する場面の設定、対話的な活動の充実、評価の工夫などの手だてを講じて、子供主体の協働的な問題解決的な学習を実現しようとしています。

当日の授業や提案において、子供たちが、どのように自ら「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、問いを見いだして追究し、考え、生きて働く知識を獲得していくのか、大いに期待したいところです。

二月に行われた年度大会の熊本大会に引き続き、参集対面での開催になります。ぜひ、大勢の皆様にご参集いただき、東京都小学校社会科学研究会の研究理論・会場となる新宿区立四谷小学校・小金井市立小金井第一小学校・中央区立日本橋小学校・世田谷区立代沢小学校における公開授業並びに提案、そして、意欲的な授業実践に基づき全国各地からの課題提案について熱く議論し、共に大会テーマの実現に迫っていくことができるよう期待しております。

第六十一回 全国小学校社会科学研究協議会 研究大会東京大会に向けて

全国小学校社会科学研究協議会副会長
東京都小金井市立小金井第一小学校長

浅野 正道



第六十一回全国小学校社会科学研究協議会研究大会(東京大会)(十一月九日、十日)の開催が間近に迫りました。十年振りに、東京都から社会科の研究成果を公開授業とともに、全国へと発信いたします。

今回の東京大会では「社会とつながり未来を創る子供の育成」を研究主題に掲げ、ここまで「『オー東京』」で研究を深め実践を積み重ねてきた成果を、四つの会場校で全学級の公開授業を通して発表します。会場校は、新宿区立四谷小学校、小金井市立小金井第一小学校、中央区立日本橋小学校、世田谷区立代沢小学校となります。東京都の区市町村を、四つの会場の担当地区に振り分け、約二年間に渡って、それぞれの地区から多くの先生方が会場校の校内研

究に関わり、一緒に授業をつくり上げてきたところです。

各会場校では、自校の教職員と他地区・他校から参加した多くの先生方が、研究授業の事前検討会と校内研究会当日の授業参観及び研究協議会等で、教材や学習活動、学習内容、指導法や評価等について何度も真剣に議論を重ね、熱く語り合ってきました。その中で、お互いに学び合いを深め、より良い授業の構築に努めてこられたと考えています。

十一月十日(金)、全国社会科を学ぶ学ぼうとする皆様が、東京都に集い、それぞれの会場校で、子供たちの主体的な学びの姿を各学年・学級の授業においてご覧いただき、その後の学年別授業研究会で、「社会とつながり未来を創る子供」について熱く意見を交わせることを願っています。東京大会の最終案内が配信されましたら、全国の皆様に参加を申し込んでいただき、東京都へとお越しくださるよう、心よりお願いを申し上げます。

第六十二回全国小学校社会科学研究協議会東京大会

大会主題 『社会とつながり未来を創る子供の育成』

『社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して』

主

東京大会実行委員長
小金井市立小金井第三小学校長

増田 亮



一 はじめに

六十年前、第一回大会を東京で開催して以来、東京から十年ごとに社会科の課題解決に資する研究発表を続けてきました。東京での開催は、今回で七回目となります。前回大会での研究成果を継承し、都小社研のメンバーがこの十年間に積み重ねてきた授業実践の研究成果を発表いたします。

現行の学習指導要領が全面実施になった年度の直前に始まったコロナ禍。当たり前にできていたことができなかったという悔しい思いがあったからこそ、コロナ前と同じ参加形で開催することができるとをたいへんうれしくありがたく思います。これまでの三年間、他教科の多くの全国大会が中止となっていた中、全小社研研究大会開催

○社会的事象への問いをもち、社会の出来事を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わろうとする子供
教材開発の三つの観点

○社会とのつながりを意識できる教材

○東京らしさやよさを感じ、都民としての誇りがもてる教材
○人の営みや働きに共感できる教材

学習指導要領解説に示された「知識」、「見方・考え方」、「問い」、「資料」の四つを手がかりにして開発した教材を分析し、子供の学びのプロセスに即して単元を構想しました。

問題解決的な学習の基本形

「つかむ↓調べる↓まとめる↓つなぐ」

子供たちが未来に目を向けたり、学んだことを未来につなげたりするために、「つなぐ」という学習過程を設定しました。私たちは何をすればよいのか、これからは何が大切なのか、今は何を優先すべきなのかなど、社会に見られる課題への解決方法や社会への関わり方を考えることができるようにしました。

授業づくりの三つの手立て

○主体的に問いを追究する工夫
社会的事象との出会いや子供の思考に即した問いの構成を工夫したり、調べる対象や

資料、方法を選んだ子供たちが選んで追究できるようにしたりしました。

○見方・考え方が働く学習活動の工夫

視点に着目して問いについて調べる学習活動、比較・分類・関連付け・総合して考察する学習活動、社会に見られる課題の解決や関わり方について議論し考えを高め合う学習活動ができるようにしました。

○子供の学びを確かにする評価の工夫

三観点による評価計画を作成し、「指導と評価の一体化を図るための評価」と「子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価」に取り組んできました。

三 日時・会場・内容

第一日 十一月九日(木)

十三時～十六時四十五分

江戸から続く四百年の伝統が今も息づき、江戸情緒が色濃く残る浅草で行います。

浅草公会堂

台東区浅草一―三八―六
開会行事・全体会・大会主題提案・指導講評・記念講演他

第二日 十一月十日(金)

八時五十分～十六時半

都内四つの学校会場に分かれ、地域の教育資源を存分に活用した授業を公開します。

第一会場 新宿区立四谷小学校

第二会場 小金井市立

第三会場 小金井第一小学校

第四会場 中央区立

日本橋小学校

世田谷区立

代沢小学校

公開授業・全体会・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会

四 講師

第一日 全体会

指導講評

文部科学省初等中等教育局教科調査官

小倉 勝登先生

記念講演

「江戸という時代」

東叡山輪王寺門跡主 寛永寺貫首

浦井 正明先生

大石 学先生

徳川林政史研究所特任研究員(進行)

浦井 祥子先生

第二日 学校会場

第一会場

大妻女子大学教授 澤井 陽介先生

第二会場

東京女子大学教授 櫻井 眞治先生

第三会場

国学院大学教授 安野 功先生

第四会場

白百合女子大学教授 中田 正弘先生

五 参加申し込み

全小社研、または、都小社研の大会申し込みページから、個人単位でのオンライン事前申し込みが必要です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

東京大会

第一日目 十一月九日(木)

会場 浅草公会堂

午後一時より

・開会行事

・大会主題提案・指導講評

第二日目 十一月十日(金)

都内四会場にて実施

第一会場

新宿区立四谷小学校
校長 石井 正広

■学校・地域の特徴

本校は、平成十九年にそれぞれ百年以上の歴史を誇った旧四谷第一小学校、四谷第三小学校、四谷第四小学校を統合して創立した「統合新校」であり、本年度で十七年を迎えました。学校の近くには、四谷見附跡、四谷大木戸や玉川上水記念碑、国宝の迎賓館など、江戸から続く歴史を肌で感じることが出来る地域です。三校の歴史と伝統を引き継ぎ、新宿区指定の地域協働学校としても十三年目になりました。スマイルクラブ(学校支援ボランティア登録者)による支援のもと、生活科・社会科・総合的な学習を中心に地域社会とつながった学習が展開されています。

■研究の概要

子供が地域のひと・もの・ことにつながる事ができる教材開発をすすめ、単元の目標に迫る人物の営みを資料化するとともに、「自分発・みんな発・自分行き」の授業を通して、社会

的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を実現し、社会とつながり未来を創る子供の育成を目指します。

そのために次の三つのことを大切にしたい授業づくりをすすめています。

●未来の社会を創ることにつながる見方・考え方を養う人物の教材化

●「じぶんタイム・みんなタイム・ふりかえりタイム」による授業構成

●子供が学びを自ら振り返るツール「学び万カード」の活用

第二会場

小金井市立小金井第一小学校
校長 浅野 正道

■学校・地域の特徴

本校は、明治六年(一八七三年)、小金井市内で現存する最も古い寺である金蔵院の中に尚網学舎として開校し、令和五年に創立百五十周年を迎える長い歴史と伝統を有しています。学区域及びその周辺には、市役所や警察・消防署、農家、商店街やスーパーマーケット、浄水所、ごみ中間処理場、玉川上水等があり、社会科学習の教材の宝庫となっています。令和二年度より、国立教育政策研究所の研究指定を受けて、社会科を中心に校内研究を継続しており、令和三年度には第七十五回全国社会科教育研究協議会(社会科教育連盟)会場校として、社会科と生活科の公開授業を行っています。

■研究の概要

校内全体で、社会科をはじめ全ての教科等の学習において、子供が主体的に考え、話し合い、

表現する授業を継続して行っており、自ら問いをもち、対話的に学び合ったり多角的に考えたところでの学習活動を展開しているところとあります。研究の重点は、以下のとおりです。

○子供が主体的に学び方を選択し、調べて考える時間を十分に確保して、少人数グループやICT端末等を効果的に活用して友達とゆったりと話し合い、表現できるようにする。

●社会的事象の見方・考え方を働かせることを促す教材を開発する。

●社会的事象に着目した問いや、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える問いを投定する。

●問いをもち、対話的に学び合い、複数の立場や意見を基に考える学習活動を工夫する。

●毎時間の学習活動や評価に合わせて、ノート等で振り返りを行い、次時の学習につなげていく。

第三会場

中央区立日本橋小学校
校長 児玉 大祐

■学校・地域の特徴

日本橋は、三越本店や日本銀行など歴史ある建築物が立ち並びエリアで、古き良き伝統と新しさが共存している魅力があります。また、江戸時代から五街道の起点として、全国各地から多くの人や物が集まってきました。今でも商業・経済・文化の中心地として、賑わいを見せている地域です。

西郷隆盛の屋敷跡に建つ本校では、地域の特徴を生かし、伝

統と文化を大切にした教育活動を展開するとともに、ICTを活用した「オンライン英会話」や、一律に子供たちに課す宿題を廃止し、家庭での学びを支援する「MyStudy」に取り組むなど、先進的な教育活動にも積極的に挑戦しています。

■研究の概要

子供たちが「問い」に向かい、当事者意識をもって主体的に追究していく授業づくりを目指し、文部科学省や東京都教育委員会から協力校・推進校の指定を受け、実践的な研究を進めています。

研究大会では、これまで社会科学授業で取り上げてきた地域教材と、子供たちの「？」を導き出す教材との出合いの工夫を分析・整理し、主体的な学びの方程式「日本橋スタイル」を提案します。

【日本橋スタイル】

●地域教材の開発・販売の仕事(地域に根づく「三越本店」「馬喰町問屋街」、年中行事「日本橋最大の祭り「べつたら市」、工業生産優れた技術「文房具「ぺんてる」」、情報産業(報道の使命)「読売新聞」)、江戸文化(老舗「浮世絵版元」「伊場仙」、政治(日本橋の再開「三井不動産」)「首都高速道路」教材との出合い)二段階の教材提示と疑問・予想、毎時間の「問い」の設定 など

第四会場

世田谷区立代沢小学校
校長 諸角 哲男

■本校・地域の特徴

本校は、明治十三年(一八八〇

年に伊東伝吉氏邸に「代澤学校」として開校し、令和五年度に創立百四十四周年を迎える長い歴史と伝統を有しています。下北沢駅の南口商店街を抜けた住宅地にある本校の周辺には、徳川家ゆかりの「森蔵寺」や「北澤八幡神社」等、歴史的建造物もあり自然も豊かです。また、校舎の南側には、玉川上水の分水(北沢川)を暗渠とした「北沢川縁道」が遊歩道として整備されています。高度処理水が流れる「せせらぎ」には、四季折々の動植物を見ることが出来ます。令和三年度より、生活科、社会科の研究を進めています。

■研究の概要

地域や社会、人々の働きに着目し、自ら問いをもち、見方・考え方を働かせながら、自らの学習を振り返ったり見直したりして学び、対話を通して考えを広げ深める子供を育成しています。

●子供の追究意欲を高める地域教材の開発を行うとともに、教師の手を離れても自ら学びを進められるような単元設計と学習活動を工夫する。

●子供が自らの学習状況を管理したり把握したりするとともに、学びを次につなげるための改善の視点をもてるよう振り返る活動を工夫する。

●子供の学習の進捗状況の評価し、社会的事象の見方・考え方を助けて追究することが出来るよう教師の助言の仕方や学びの場の設定を改善する。

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局長
東京都練馬区立大泉第三小学校長 風見由起夫



○第百十二回理事会について

令和五年六月二日(金)、日本出版クラブで、第百十四回理事会が開催されました。和田幹夫会長の挨拶の後、議事に入り、

令和五年度役員

会長 和田 幹夫(東京・板橋区立上板橋第四小学校)
副会長 浅野 正道(東京・小金井市立小金井第一小学校)

千葉 一博(北海道・札幌市立三里塚小学校)
飯岡竜太郎(岩手・盛岡市立桜城小学校)
加藤 和之(神奈川県・横浜市立大道小学校)
小泉 敦嗣(石川・金沢市立十一屋小学校)
八木健太郎(名古屋・名古屋市立立橋小学校)
廣岡 浩(大阪・大阪市立喜連北小学校)
田中 嘉彦(鳥取・鳥取市立国府東小学校)
役重 和雅(香川・土庄町立土庄小学校)
金城 和也(沖縄・那覇市立仲井真小学校)
宮本 雅司(神奈川県・横浜市立大曽根小学校)
三好 浩一(東京・町田市立忠生小学校)
石井 正広(東京・新宿区立四谷小学校)
諸角 哲男(東京・世田谷区立代沢小学校)

理事 各地域団体組織代表者

事務局次長 風見由起夫(東京・練馬区立大泉第三小学校)
吉川 正(東京・中野区立桃花小学校)
鈴木 優介(東京・西東京市立立谷第二小学校)
矢部 洋一(東京・港区立立竿小学校)
齋藤幸之介(東京・多摩市立諏訪小学校)
酒川 敬史(東京・練馬区立旭丘小学校)
中嶋 太(東京・西東京市立東伏見小学校)
小澤 伸生(東京・杉並区立馬橋小学校)

調査研究部長
会報部長

中嶋 太(東京・西東京市立東伏見小学校)
小澤 伸生(東京・杉並区立馬橋小学校)

令和四年度の事業・決算が承認されました。ついで、令和五年度役員が紹介され、令和五年度事業計画・予算の承認がなされました。

引き続き、第六十一回東京大会の概要説明、第六十二回島根大会の案内がありました。次第では、令和六年度和歌山大会の案内も予定されていますが、台風二号による交通機関運転停止の影響を受け、和歌山大会の

案内は、持ち越しとなりました。

理事を終了後、文科省教科調査官小倉勝登先生による教育講演会が開催され、コロナ禍で行われた神奈川大会、福岡大会、大阪大会、佐賀大会、北海道大会、熊本大会の提案をもとに、全小社研の今後の研究に期待することとして多くの示唆に富むお話をいただきました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年、研究論文を募集して、その成果を冊子にまとめ全国に紹介しております。今年度も文科省教科調査官小倉勝登先生を中心に論文審査をお願いし、優れた論文を研究集録第五十九集として三月に刊行する予定です。

一 研究主題

「学習指導要領の具現化を目指す社会科指導の工夫」

二 研究実践例

(一)「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した研究実践

(二)児童に身近な教材を取り上げ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した研究実践

(三)一人一人の児童に生きる力としての問題解決能力の育成を目指した研究実践

(四)児童が社会的現象の見方・考え方を働かせ、課題を追究していく研究実践

(五)社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力の育成を目指した研究実践

(六)体験的な活動を適切に組み入れ、考えに広まりや深まりをもたせた研究実践

(七)学んだことを実社会・実生活等に活用し、社会参画を視野に入れた研究実践

三 応募要項

(一)論文枚数

A 4縦置き 横書き 六枚

(二)締切

令和六年一月十五日(月)必着(当日消印有効)

(三)応募資格
正会員である団体の長(都道府県小社研会長等)の推薦、または準会員(個人会員)

(四)応募方法
官製はがき又はメールに次の事項を記入の上、令和五年十二月一日(金)までに事務局担当者にお申し込み(応募登録)ください。

a 副主題 b 実践学年
c 実践単元 d 実践者職・氏名
e 勤務校
f 勤務校所在地、郵便番号
勤務校電話番号 F A X 番号
g 「団体の長の推薦」又は「個人会員」の資格の明記

(五)発表
審査結果は二月末までに本人宛て連絡し、入選・佳作は研究集録に掲載します。

(六)問い合わせ先・応募先
〒一六四一〇〇一一
東京都中野区中央五―四三―一
中野区立桃花小学校長
吉川 正

会 員 募 集

全小社研では、小学校社会科教育発展のため、全国各地の研究団体(正会員)と個人会員(準会員)が連携して研究活動を続け、その成果を積み上げてきました。今年度も個人会員への加入にご協力ください。

一 個人会員の性格・特典

個人会員は、準会員として会費を負担することにより、研究論文への応募資格を得るとともに、全小社研の研究成果の刊行物(研究集録・会報・資料)の送付を受けることができます。

二 会費の納入方法

最寄りの郵便局より、郵便振替にて会費をご送金ください。確認でき次第、会員証を送付します。

三 郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六二八二五五七

全国小学校社会科研究協議会

四 問い合わせ先
〒一八八〇〇〇〇一
東京都西東京市
谷戸町一―一七―二七
西東京市立
谷戸第二小学校長
鈴木 優介

TEL 〇四二一四二一五〇五一
FAX 〇四二一四二一二四〇〇